

18. 症状および兆候

文献

野戸結花, 佐藤哲観. 健常者に対する背部軽擦法マッサージの効果. 弘前大学医学部保健学科紀要 2005; 15: 97-102. 医中誌 web ID 2006303302

1. 目的

背部軽擦法が生理的指標・主観的指標に及ぼす影響を実施時間の違いにより評価。

2. 研究デザイン

準ランダム化比較試験 (quasi-RCT または CCT)

3. セッティング

記載なし。

4. 参加者

健康成人、67 人、男女比と年齢は記載なし。

5. 介入

マッサージの手技は座位前屈位で背部に施行

Arm 1 : オイルマッサージ 10 分群 13 人

Arm 2 : オイルマッサージ 3 分群 16 人

Arm 3 : コントロール群 (安静) 13 人

追加実験 : コントロール群 (安静) と同様 25 人

6. 主なアウトカム評価項目

血圧、心拍数、呼吸数、SpO₂、体温、背部皮膚温、日本語版 STAI、ストレス程度・リラックス程度の VAS

7. 主な結果

1) 背部皮膚温 : 10 分マッサージの直後のみ対照群に対し有意な上昇を示した ($p < 0.001$)。

2) STAI スコア : 10 分マッサージ・3 分マッサージともに前値に対し有意に低減した ($p < 0.001$)。

3) ストレス程度の VAS : 10 分マッサージ・3 分マッサージともに前値に対し有意に低減した ($p < 0.001$)。

4) リラックス程度の VAS : 10 分マッサージ・3 分マッサージともに前値に対し有意に低減した ($p < 0.001$)。

5) 血圧、心拍数、呼吸数、SpO₂、体温に有意な変化はなかった。

8. 結論

背部マッサージ (軽擦法) は背部皮膚温を上昇させるが、その程度は実施時間の影響を受ける。また、同マッサージにはリラクゼーション効果があるが、バイタルサインには影響を与えない。

9. 論文中の安全性評価

記載なし。

10. Abstractor のコメント

看護現場においては時間を有効活用することは大切な事実である。患者様に、より良好な効果を的確な時間内で発現させる時間を把握しておくことは重要である。本研究は生理的データのなかで唯一変化のあった背部皮膚温の測定に関するノウハウが若干不足していると考ええる。サーモグラフィ装置を使用しているが、環境温の設定がサーモロジー学会の基準に適合していない、またオイルの処置の記載がない。コントロール群の皮膚温が安定できなかった理由は環境温度・湿度の変動に起因している。

11. Abstractor and date

徳竹忠司 2011.12.9